

正 誤 表

「シンプル生化学（改訂第7版 第1刷）」

下記の箇所にて誤りがございました。謹んでお詫びし訂正いたします。

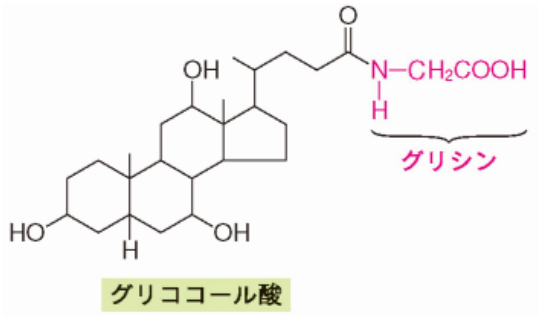
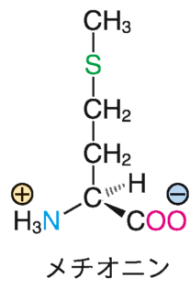
頁	該当箇所	誤	正	
37	図 3・2	系の名前	リ <u>ボ</u> キシゲナーゼ系	リ <u>ポ</u> キシゲナーゼ系
		構造式の名 前	トロンボキサン A ₂ (PGA ₂)	トロンボキサン A ₂ (TXA ₂)
			ロイト <u>コ</u> リエン	ロイ <u>コ</u> トリエン
42	図 3・10 グリココ ール酸の構造式	[右に差し替え] 		
51	表 4・2 メチオニンの 構造式	[右に差し替え] 		
76	表 6・2	[以下に差し替え]		

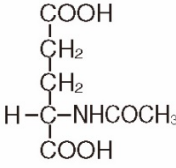
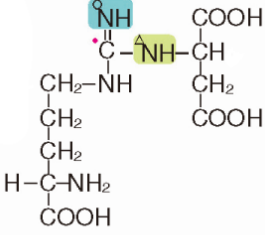
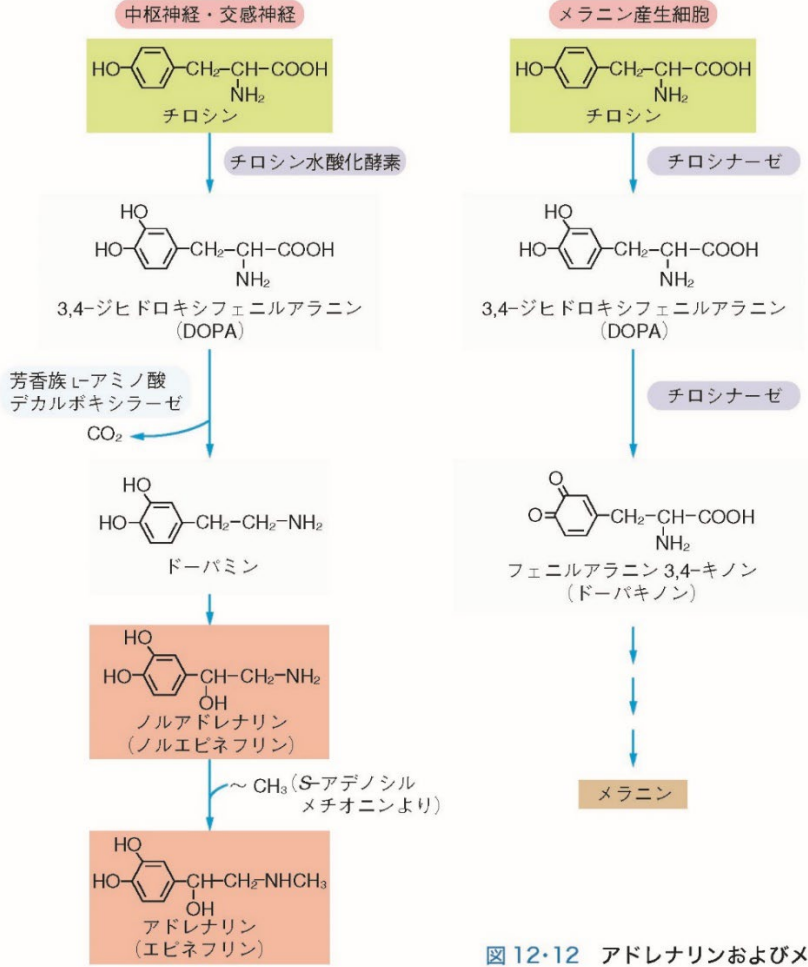
表 6・2 酵素の分類

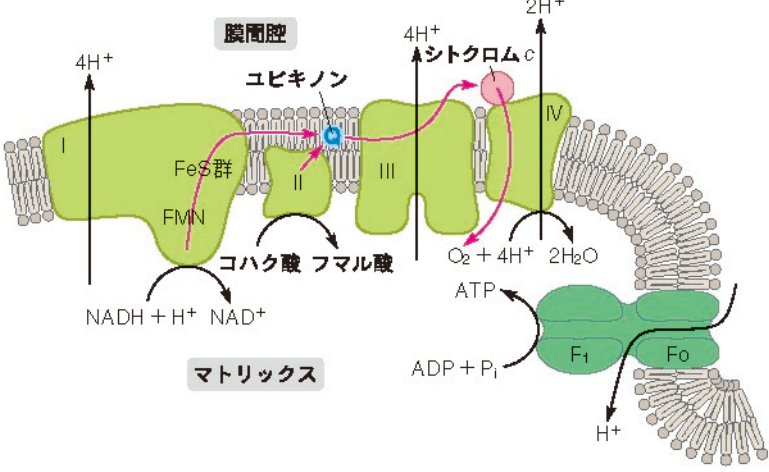
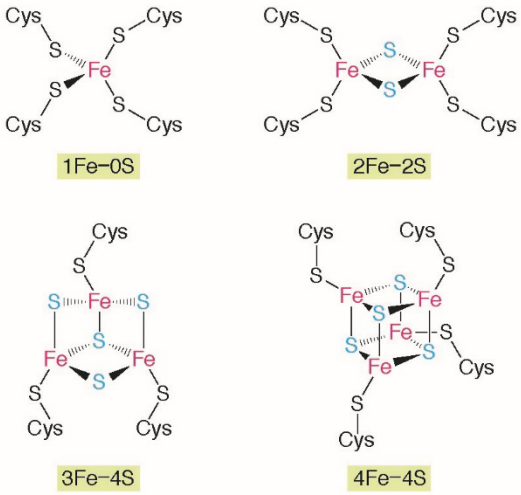
分類	触媒する反応	酵素の例	
		EC 番号	常用名
EC1 酸化還元酵素 oxidoreductase	酸化還元反応	1.1.1.27.	L-乳酸デヒドロゲナーゼ L-lactate dehydrogenase
		1.13.11.11.	トリプトファン 2,3-ジオキシゲナーゼ tryptophan 2,3-dioxygenase
EC2 転移酵素 transferase	原子団（アミノ基，メチル基，リン酸基）を，ある分子から他の分子へ転移させる反応	2.6.1.1.	アスパラギン酸トランスアミナーゼ aspartate transaminase
		2.7.1.1.	ヘキソキナーゼ hexokinase
EC3 加水分解酵素 hydrolase	エステル化合物，多糖，タンパク質などの加水分解反応	3.4.21.4.	トリプシン trypsin
		3.5.1.5.	ウレアーゼ urease
EC4 脱離酵素 （リアーゼ） lyase	脱離反応により二重結合を形成する反応，逆に付加反応により二重結合へ置換基を導入する反応	4.1.2.13.	フルクトース-ビスリン酸アルドラーゼ fructose-bisphosphate aldolase
		4.6.1.1.	アデニル酸シクラーゼ adenylate cyclase
EC5 異性化酵素 （イソメラーゼ） isomerase	ラセミ化，エピマー化，シス-トランス変換，分子内転移など，異性体間の転換反応	5.3.1.1.	トリオースリン酸イソメラーゼ triose-phosphate isomerase
		5.4.99.2.	メチルマロニル CoA ムターゼ methylmalonyl-CoA mutase
EC6 合成酵素 （リガーゼ） ligase	ATP などの高エネルギー結合の加水分解エネルギーを利用して 2 つの分子を結合させる反応	6.3.1.2.	グルタミンシンターゼ glutamine synthetase*
		6.4.1.1.	ピルビン酸カルボキシラーゼ pyruvate carboxylase
EC7 輸送酵素 translocase	生体膜を通して分子やイオンを移動する。移動の駆動力などによっても区分される。	7.1.1.9.	シトクロム c オキシダーゼ cytochrome-c oxidase
		7.2.2.13.	Na ⁺ , K ⁺ -ATP アーゼ Na ⁺ , K ⁺ -ATPase

*シンターゼ synthetase はリガーゼ ligase の別名で，和名は合成酵素であり，EC6 群の酵素についてのみ用いられる。一方，EC6 群以外の酵素について，特に EC2 群や EC4 群などの合成的な反応を触媒する酵素に対して，よく似たシンターゼ synthase という名称が用いられることがある。この場合も日本語としては合成酵素が用いられている。

77	2～6 行目（項目 6 - 3）	[以下に差し替え] 国際生化学・分子生物学連合の1992年版酵素目録Enzyme Nomenclature 1992には，現在知られているほとんどすべての酵素が収録されている（Enzyme NomenclatureはWeb版を検索可）。それらは6種類に大別され，各酵素には識別のための分類番号がつけられている。各番号の前にはECがつけられEC番号と呼ばれる。酵素名は原則として基質名と触媒する反応名に-aseをつけたものである。なお，目録は順次改訂され，2018年には大分類の7番目として輸送酵素translocaseが加えられた。表6・2に分類とその例を示した。	
103	13 行目	ヒスチ <u>ジ</u> ンの分解	ヒスチ <u>ジ</u> ンの分解
104	↑ 3 行目	S-アデノシルメチ <u>オン</u>	S-アデノシルメチ <u>オニ</u> ン
115	表 8・3 最下行	Ca ²⁺ 1.8 < 0.0002	[削除]

130	図 9・6	<p>[以下に差し替え]</p> <p>図 9・6 胆汁酸の代謝</p>		
135	↑ 6 行目	fruc_tose-bisphosphate aldolase	fructose-bisphosphate aldolase	
167	図 11・4 中の文字	Δ^2 - <i>trans</i> - <u>エイノル</u> CoA	Δ^2 - <i>trans</i> - <u>エノイル</u> CoA	
		<u>エイノル</u> CoA ヒドラターゼ	<u>エノイル</u> CoA ヒドラターゼ	
172	図 11・8 中の化学式	マロニル CoA	HOOC <u>CO</u> ~SCoA	HOOC <u>CH₂</u> CO~SCoA
		マロニル ACP	HOOC <u>CO</u> ~SACP	HOOC <u>CH₂</u> CO~SACP
		D(-)-3-ヒドロキシブチリル APC	CH ₃ <u>CO</u> (OH)CH ₂ CO~SAPC	CH ₃ <u>CH</u> (OH)CH ₂ CO~SAPC
191	↑ 17, ↑ 14 行目	グルタミンシン <u>セ</u> ターゼ	グルタミンシン <u>テ</u> ターゼ	

	↑12～↑11行目	<u>グルタミン酸合成酵素 (グルタミンナーゼglutaminase) に</u>	グルタミンナーゼ glutaminaseに
192	図 12・2 中の構造式	N-アセチル グルタミン酸	[以下に差し替え]  N-アセチル グルタミン酸
	アルギニノ コハク酸	[以下に差し替え]  アルギニノコハク酸	
199	10行目	<u>グルタミン酸合成酵素 (グルタミンナーゼ)</u>	グルタミンナーゼ
203	図 12・12	[以下に差し替え]  図 12・12 アドレナリンおよびメラニンの生成	
206	8行目	<u>グルタミンシンターゼ</u>	グルタミンシンターゼ

207	2行目	アスパラギンシン <u>セ</u> ターゼ	アスパラギンシン <u>テ</u> ターゼ
	14行目	セリン <u>メ</u> チルトランスフェラーゼ	セリン <u>ヒ</u> ドロキシ <u>メ</u> チルトランスフェラーゼ
234	[注] の HMG-CoA の構造式	[以下に差し替え] $\text{HOOCCH}_2-\overset{\text{CH}_3}{\underset{\text{OH}}{\text{C}}}-\text{CH}_2\text{CO}-\text{S}-\text{CoA} + 2\text{NADPH} + 2\text{H}^+$ HMG-CoA	
239	6~9行目	[右に差し替え] $\text{SOD} : 2\text{O}_2^{\cdot -} + 2\text{H}^+ \rightarrow \text{H}_2\text{O}_2 + \text{O}_2$ $\text{GPX} : \text{H}_2\text{O}_2 + 2\text{GSH} \rightarrow 2\text{H}_2\text{O} + \text{GSSG}$ $\text{LOOH} + 2\text{GSH} \rightarrow \text{LOH} + 2\text{H}_2\text{O} + \text{GSSG}$ $\text{CAT} : 2\text{H}_2\text{O}_2 \rightarrow 2\text{H}_2\text{O} + \text{O}_2$	
242	図16・1	[以下に差し替え]  <p style="text-align: center;">図 16・1 ミトコンドリア内膜における電子伝達複合体と ATP 合成酵素</p>	
243	図16・3	[以下に差し替え]  <p style="text-align: center;">図 16・3 鉄-硫黄クラスター</p>	
251	3行目	図16・8	図16・7

[以下に差し替え]

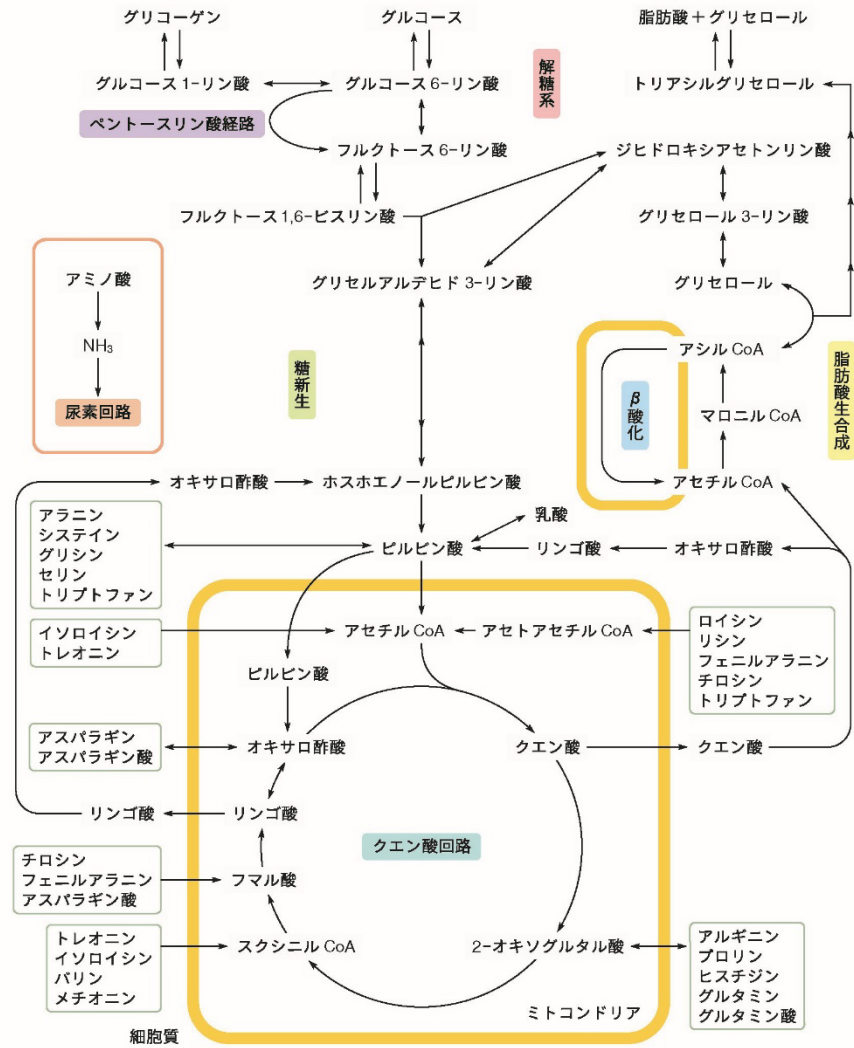


図 17・1 糖質、脂質、およびアミノ酸の代謝の相互関係

266	14行目	coat protein_II	coat protein <u>complex</u> II
-----	------	-----------------	--------------------------------

325	3行目	グルタミナーゼ (グルタミン酸合成酵素: GLS)	グルタミナーゼ (GLS)
-----	-----	---------------------------	---------------

[以下に差し替え]

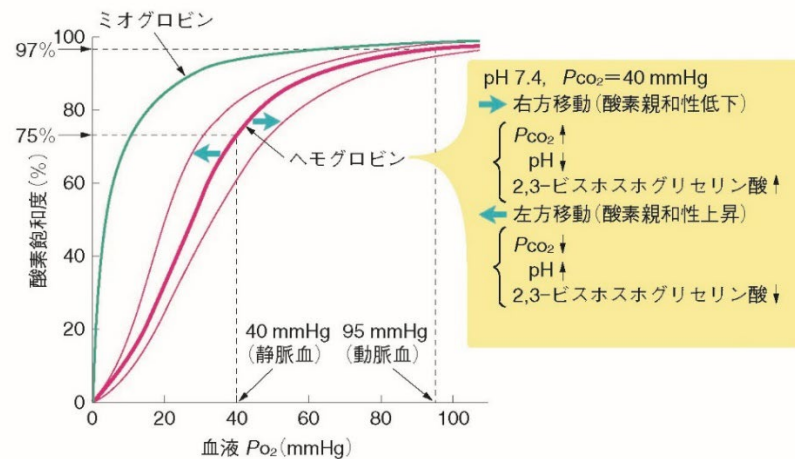


図 24・15 ヘモグロビンとミオグロビンの酸素解離曲線

425	表 25・ 7 ↑ 13 列目	栄養素の行	ナトリウム ⁵ <u> </u>	ナトリウム ⁶ <u> </u>
		目標量の行	<u> </u>	<u> </u>

2024年5月7日
株式会社南江堂